



名称は

# 野口遵記念館に

基本構想・基本計画を策定

客席600〜700、4年後開館へ 延岡市

老朽化した野口記念館の建て替え整備を進めている延岡市は、建設に向けた基本構想・基本計画を策定した。再整備にあたり名称を「野口遵記念館」と改め、まちの魅力を創造、発信する貴重な財産として長く親しまれる施設を目指す。客席数は600〜700席程度とし、2020年度着工、2022年中に開館の見通し。

基本構想・基本計画によると、野口遵記念館は、市民のまちへの愛着や誇りを醸成し、市民のまちづくりに対する参画意欲を高め、成熟した地域社会の形成に役立つ施設として再整備する。また、活

力ある地域を築くために、市外からの誘客にもつながら地域の活性化に寄与する施設とする。基本理念は、①まちへの愛着と誇りを醸成します②全ての市民の主体性、自主的な文

化芸術活動を支えます③次代を担う子どもたちを育み、活力ある地域社会を築きますの3点。市民の文化活動を支え、文化芸術に触れる機会を提供するほか、交流促進とに

ざわい創出、野口遵翁の頭影と工都延岡の歴史を伝える機能を持たせる。施設の面積は4200平方メートル程度。舞台芸術にも対応する音楽重心型の多目的ホールは、客席数600〜700人程度とし、市民利用を主にプ

口の巡回公演などにも対応できるよう計画。市民の晴れの場として、ふさわしい雰囲気と音響効果を持つデザインとする。

また、野口遵翁の人物や功績を顕彰するギャラリーのほか、旭化成と延岡の関わりや「工都延岡」と言われた延岡市の黎明(れいめい)期の姿などをテーマにした展示室を設置。各種会議やミニコンサートなどに対応するフリースペースや練習室・リハーサル室、交流フロンジ、授乳室・託児室などの配置も計画する。

整備スケジュールは、設計者の選定の後、基本設計・実施設計を行い、2020年度に着工し、翌年度に完成予定。旭化成創業100周年の2022年5月、延岡市制90周年の2023年2月を見据え、2022年中の開館を目指して整備を進める。

野口記念館は昭和30年に旭化成工業が建設し、市制20周年と同社の創業30周年を記念して市に寄贈した。旭化成創業者の名を冠し、文化の殿堂」として長く市民に親しまれたが、築60年以上が経過して老朽化し、抜本的対策が急務となっていたことを受け、同社が市に再整備費として30億円を寄付していた。

築60年以上が経過して建て替えられる野口記念館

【整備スケジュール】旭化成株式会社の創業100周年(2022年5月)、延岡市制90周年(2023年2月)を見据え、2022年中の開館を目指して整備を進める。

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
施設整備		設計者選定	基本設計	実施設計	入札	工事
運営計画開館準備		管理運営基本計画	管理運営実施計画		開館準備	
	基本構想基本計画				竣工	習熟訓練
						開館